読んだ本　（J.ベルヌ　作　高楼方子　文　佐竹美保　絵　ポプラ社）

「十五少年漂流記」

川崎市立さくら小学校三年　川村（かわむら）　香綾（かりん）

この物語には、8才から14才までの少年15人が登場します。私はジャックという10才の男の子のことがとても気になりました。なぜなら、ジャックは明るい子のはずなのに、漂流生活が始まってからずっと、元気がなかったからです。仲間とけんかをしたのかな？体調が悪いのかな？そして悲しくなったのかな？家族に会えなくて、そしてもう、子どもたちが船に乗りこんでしまったのかな？2年間ずっと漂流するこになってしまったのかな？ジャックがいつもとずいぶんちがうことをしたり、その原因が知りたくて、本を読みすすめていくと漂流した理由がわかりました。

「ぼくが何をしたか、ちゃんといいます。みんな、きいてください。」

ジャックの言葉で、私の知りたかったことがよくわかりました。ジャックは、船が漂流するまでの原因を作ったのは、橋につないであった船のつなぎ目をはずしたからです。ジャックは自分がしたことをしっかりと後悔していました。

みこすれ。苦しいけれど、通すべきだと思います。自分のひとりぼっちでいたくないと話すことは、正直にあやまることです。

かくれ、仲間はずれにされたくないと話すことは、ジャックは、仲間にあやまることです。

「人をゆるすこと」は大切なことだと学びました。私は家族や先生、クラスのお友達などまわりにいる大切な人達を素直にずっとみつめて、自分のあやまちをゆるすことのできる心の広い女性になりたいです。